

マダニ刺症について

マダニは0.1～3mmの寄生吸血性の虫で、日本では46種が同定されています。夏に活発に活動するため5～7月に野山や草地に入ったときや、ペットを介して刺されることが多いです。マダニに刺されても気付かず、吸血によってマダニが大きくなって分かります。

マダニに刺されて皮膚症状を起こすことに加え、様々な感染症を起こす可能性があるため、早期に除去することが望ましいです。ただし、無理に引き抜くとマダニの口器が皮膚内に残る可能性があるため、注意が必要です。

症状

①皮膚症状として2～3日で紅斑、掻痒感、異物感、紫斑、痛み、リンパ管炎を認めます。

②マダニの保有している病原体が侵入することで以下の感染症を起こすことがあり、重症化することもあります。

マダニ媒介感染症

	潜伏期間	症状	治療
日本紅斑熱	2～8日	紅斑、発熱、頭痛	テトラサイクリン、ニューキノロン
ライム熱	数日～数週間	遊走性紅斑、発熱、筋肉痛	テトラサイクリン、セフトリアキソン
回帰熱ポレリア	5～10日	発熱、頭痛、筋肉痛	テトラサイクリン
Q熱	2～3週間	発熱、倦怠感、呼吸器症状	テトラサイクリン、クロラムフェニコール
野兎病	3～5日	発熱、頭痛、筋肉痛	テトラサイクリン、アミノグリコシド
マダニ媒介性脳炎	2～28日	発熱、頭痛、痙攣、知覚異常	対症療法
重症熱性血小板減少症候群	6～14日	発熱、消化器症状、頭痛	対症療法

マダニの除去法

- ①自然脱落法：自然に取れるまで、約 2 週間経過観察を行います。
- ②ワセリン法：マダニ覆うように白色ワセリンを塗布し、30 分後にガーゼ等でマダニごとふき取り除去します。
- ③Tick Twister：マダニ抜除用器具でマダニ口器を挟むようにして回転させ、除去します。
- ④後方刺入法：局所麻酔下でマダニ下面の皮膚にハサミを入れて空間を作り、マダニを潰さないように空間に落とし込み、除去します。
- ⑤外科的摘出：局所麻酔下で皮膚ごとマダニを摘出し、皮膚縫合します。

予防法

- ①皮膚の露出を少なくする。
- ②虫よけ剤(DEET、イカリジンなど)を噴霧する。
- ③帰宅後はマダニの付着がないかチェックする。